

研究テーマ	〔 I 造形教育で培う力を考える〕 豊かな感性を養うための鑑賞の授業 ー中学3年生「錫の鋳物のペーパーウェイト」の学習ー
-------	--

潮来市立日の出中学校 教諭 山口 宏子

1 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説美術編では、美術科の目標として「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」とある。中学校美術科で育成する感性とは、様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなすものである。美術を愛好していくには「楽しい」、「美にあこがれる」、「考える」、「時の経つのを忘れて夢中になって取り組む」、「目標の実現に向かって誠実に忍耐強く自己努力をする」、「絶えずよりよい創造を目指す」などの感情や主体的な態度を養うことが大切である。鑑賞においては、自分の感じ方を大切にしながら主体的に造形的なよさや美しさを感じ取ることを基本とし、美術作品だけでなく自然や身の回りの環境、事物も含め、幅広く鑑賞の対象を捉えて、生活を豊かにする造形や美術の働きなどを実感させる指導が大切である。このことから研究テーマである造形教育で培う力を「感性を豊かにすること」、「美術を愛好する心情を育てること」に的を絞り、造形活動の鑑賞で本研究を行うこととした。

研究にあたっては義務教育の最終学年である3年生を対象に、表現活動で制作した作品を相互鑑賞する内容で実施する。9年間の集大成として3年生で行うことは、友人関係も深まりがあることから、友だちの作品本位に見ることができ、そのよさや美しさを味わうことができるであろうと考える。また、制作した身近に使える工芸作品を鑑賞することで、生活に豊かに生かし、楽しい、美にあこがれる、絶えずよりよい創造を目指すなどの感性を豊かにする感情を想起させ、美術作品を愛好する心情を育てることができるのではないかと考える。

授業においては、既習で体験したことのない素材や制作方法を用いることにより、謎解きを楽しむような感覚で行っていきたい。また、より友好的な人間関係を築くことも目的の一つとし、相互の作品自体の価値やそれに付随する制作意図も鑑賞するようにして温かい雰囲気での鑑賞会を行うことにより、感性を豊かにしながら美術への愛着心を高めていきたい。

2 実践例

(1) 題材名 錫の鋳物のペーパーウェイト

(2) 題材の目標

使用する錫や石膏などの材料の特性を主体的に生かし、表現方法を考えて表現しようとする意欲と態度を高め、錫の特性と用途に応じた形を創造的に考え、表現意

図に応じて表現する力を伸ばし、目的や機能との調和と作者の心の中の思いとを合わせて、作品のよさや美しさを味わうことができる。

(3) 題材について

① 題材観

本題材は、学習指導要領解説美術編第2学年及び第3学年内容A表現(3)イ「材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること」、B鑑賞(1)ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと」を目的として設定している。

鋳物は金属を溶かして鋳型に流し込み、冷却・凝固させたものである。鋳物の歴史は古く、人類が金属を溶かす方法を知ったBC4000年頃といわれている。鋳込みの方法は砂型、ろう型が基本をなすものであるが、現在のように木や金属の模型を用いて砂型を作る本格的な技術は、18世紀以降ヨーロッパにおいて鉄の溶解技術とともに完成されたものである。日本においても奈良東大寺の盧舎那仏像をはじめとする鋳物製造が行われていた歴史があり、仏像の他に鐘楼などがある。今日では日常生活で使われているものには鋳物鋳造の技術を駆使した製品が多く用いられており、使用に際し利便さを問うことがあっても製造工程まで知る機会は少ない。本題材において鋳物にする金属は錫を選択し、大きさを5cm³までに規定する。金属は一般的に水より比重が大きく、粘性は温度が高いと低いが、温度が低いと増していく性質を持っている。粘性が増すと流動性を失い流れなくなる。また表面張力は、水に比較して大きく、金属が型に接した場合、水のように浸透することはない。凝固点・融点は金属様々であり、錫は232℃と金属の中では低い温度で融解・凝固する。そのことから教室内でも扱える錫を鋳物の金属とすることにした。鋳物の凝固は金属に接した部分から始まり、外周からしだいに凝固していき、中心部に達して凝固が完了する。液状化した金属は湯溜まり、湯口から注ぎ込む。金属の凝固に際し、凝固中における体積減少を補う溶湯を供給する役割をする押湯が必要である。押湯が大きすぎると歩溜まりが悪く、小さすぎるとひけ巣が生じる。安定した形を維持するために、大きさを5cm³までに規定し、塊であることを基本として押湯を併用して半立体の形とするよう条件付けることにする。

本題材の活動においては、制作過程が複雑な点も多いことが特徴である。錫という金属や石膏を扱うこと、油粘土や紙粘土をはじめとする加工粘土は経験があるが土粘土で基本の形を形成することなど、未習の材料ばかりであるため、一つ一つの過程で注意を怠れば次の段階に円滑に進むことができない。しかし、どの制作過程もこれまでに経験が少ないことや、粘土を扱うと手が汚れるといった違和感も排除して行うことができるので、達成感を得ることができる内容であると考えられる。

② 生徒の実態

本題材を学習する3年生は60名である。大体の生徒は平面作品での表現活動に消極的で自信が持てていない。特に写生や実物を描く、着色するといった絵画の領

域での意欲が低い。一つ一つ描く手立てを示すことで意欲の喚起とともに技術の向上を促すことができるのは、これまでの学習で分かってきた。生徒たちは素直で真面目に学習に取り組むことができている。また、立体を制作することへの関心が高く、作りたいという意欲を見せている。このことから、未習の材料を用いた立体作品の造形活動を行うことは目標を達成するのに適していると考えられる。

③ 指導観

過程ごとに実演説明をしていくことで、制作方法を理解し、前向きに取り組むことができるであろうと考える。また、題材の導入時に、制作過程を簡略して載せた計画書を見せて、作り方を説明することで制作の見通しを立てられるようにする。初めての内容・道具・材料であることから、1時間毎に注意すること・約束については全員が守れるようにすることが大切である。そのために1時間毎に作り方を教師が実演することで、どのように行うのか目で見て分かるようにする。そして、制作が複雑なことや遅れが生じると次の段階に進めないことから、生徒を2～5人でグループ化し、一人が行った工程をグループの人に教えていくミニティーチャー方式を導入し、お互いが助け合いながら班員全員ができるようにしていく。また、制作工程に応じて机やいすの配置を換え、床を使う場所を作るなどして教室内の制作環境の整備を行っていくことにする。

鑑賞会はその制作のまとめとして行っていくものである。複雑な工程を経てできあがった作品を相互に鑑賞し、お互いの作品のよさを感じ合い伝え合うことで、感性を豊かにしながら美術への愛好心を高めていきたい。

(4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 ・使用する錫や石膏等の材料の特性を主体的に生かし、表現方法を考えて表現しようとしている。	・錫の特性と用途に応じた形を考えることにより、独創的な表現の構想を練っている。	・錫の特性を考慮した大きさや形の条件に応じて、創造的に表現している。	・ペーパーウェイトとしての色や形から受けるイメージと心の中に作り出される思いとを合わせて、作品のよさと美しさを味わっている。
鑑賞 ・ペーパーウェイトとしての美しさと作り手の心の中に関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。			

(5) 指導と評価の計画

○印は時数

時間	学 習 内 容 ・ 活 動	評 価 規 準 ・ 【評価方法】
第 1 次 ②	・ 錫の鋳物としての特性と大きさの 約 束 を 考 慮 し た 形 を 考 え ， 土 粘 土 で 原 型 を 作 る 。	・ 使用 する 錫 や 石 膏 な ど の 材 料 の 特 性 を 主 体 的 に 生 か し ， 表 現 方 法 を 考 え て 表 現 し よ う と し て い る 。 関 【 観 察 ・ 計 画 書 】
第 2 次 ⑤	・ 石 膏 で 型 を 取 り ， 錫 の 鋳 物 に す る 工 程 を 体 験 す る 。	・ 錫 の 特 性 と 用 途 に 応 じ た 形 を 考 え る こ と に よ り ， 独 創 的 な 表 現 の 構 想 を 練 っ て い る 。 想 【 観 察 ・ 計 画 書 】
第 3 次 ①	・ 自 他 の 作 品 を 鑑 賞 す る 。	・ 錫 の 特 性 を 考 慮 し た 大 き さ や 形 の 条 件 に 応 じ て ， 創 造 的 に 表 現 し て い る 。 技 【 観 察 ・ 計 画 書 】 ・ ペ ー パ ー ウ ェ イ ト と し て の 美 し さ と 作 り 手 の 心 の 中 に 関 心 を 持 ち ， 主 体 的 に 感 じ 取 ろ う と し て い る 。 関 【 作 品 ・ 発 表 ・ 観 察 ・ プ リ ン ト 】 ・ ペ ー パ ー ウ ェ イ ト と し て の 色 や 形 か ら 受 け る イ メ ー ジ と 心 の 中 に 作 り 出 さ れ る 思 い と を 合 わ せ て ， 作 品 の よ さ や 美 し さ を 味 わ っ て い る 。 鑑 【 作 品 ・ 観 察 ・ プ リ ン ト 】

(6) 本時の展開


◇目標

- 作品の相互評価を通して作品のペーパーウェイトとしてのよさを感じ取り，文章に表して伝え合うことができる。

◇準備・資料

錫の鋳物の作品 作品展示用色画用紙 展示用プリント 鑑賞プリント
実物投影機 プロジェクター

◇展開

学習内容・活動	教師の支援・評価 ○発問 □評価
1 作品の展示の準備をする。 	・ 3～4人のグループで座れるよう，机を三角形に配置しておく。 ・ 作品と作った思いをじっくりと味わえるように，作品を作ったコンセプトと題名を台紙に書くように指示し，作品を展示できるようにする。
2 鑑賞会の持ち方を知る。 作品のよさを味わおう	・ 本題材について自己を振り返るために，関心・意欲・態度，創造的スキル，発想・構想の能

(1) 固まりで半立体の形になっているか。

(2) コンセプトと作品のイメージは合っているか。

3 3～4人のグループで作品を鑑賞し合い、思いを伝え合う。

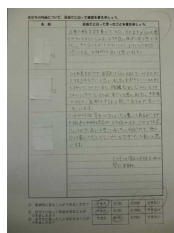
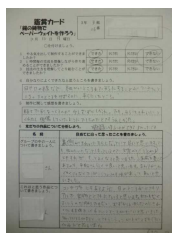


4 見たい作品を選んで観点に沿って作品を鑑賞して感想を書く。

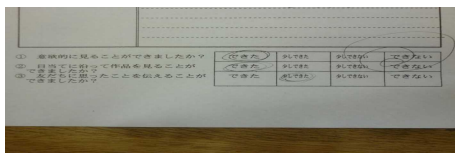
- ・〇〇さんの作品はボールの縫い目が細かく作られていて、半立体の形になっている。
- ・〇〇さんのリボンが固まりになっていて、イメージ通りできている。

5 感想を発表する。

- ・〇〇さんの作品は、妹のために作った思いがイメージ通りに形作られている。 など



6 本時の活動を振り返る。



力の3つの観点について自己反省を行うように指示する。

- ・本時の流れを板書し説明することで、活動の見通しを持てるようにする。
- ・共通事項の3つのうち、形・イメージの2つについての言及ができるようにするため、見る観点を知らせる。

○ペーパーウェイトとして紙を飛ばさない半立体の形になっていて、形が題名や作った思いと合っているか見てください。

- ・いろいろな友だちの作品を見ることができるよう、今回はグループを名簿順に決め、その中で感想を書く人を決めて思いを伝え合うようにする。

・机間を自由に回って見るよう指示する。

- ・思ったことや質問など言葉で伝え合ってもよいことを伝えておく。

・感想を書く作品は5つ程度に絞り、文章に詳しく表せるように配慮する。

・文章が観点に沿って書けているかどうか生徒のプリントを見ながら確認していく。

・1つの作品について述べることを伝えて、自発的に発表できるように促す。

・発表者が少数の時は、指名することで全体の前で発表できるようにする。

・観点に沿って書けた文章を実物投影機で大きく見せることで、味わい方を学べるようにしたい。

・鑑賞の仕方がねらい通りできたか、観点別に文章化しておき、自己反省できるようにする。

評 作品の相互評価を通して作品のよさを感じ取り、文章に表して伝え合うことができる。

(プリント 観察 発表)

・思いをうまく文章化できない場合は、どう思ったか率直に書くよう伝える。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 鋳物にする工程を全員が経験し、完成することができた。

錫の特性を理解し、工程の作業を細かく丁寧に行ったことで、見通しを持って鋳物としての作品にして全員が完成することができた。グループ化して協力し合う体制を作ったことで、作業が遅れている場合は助けたり、声かけし合うことができたので、全体的に歩調を合わせて実施することができた。鋳込みの体験は全員が行った。金属の液状化した時の重さを実体験したことで、塊としてしか見たことのない金属の不思議さに気づいたようである。ここから金属の比重や粘性の強さなどの特性を感じることもできたようである。

イ 協力し、相互によさを伝え合うことで、率直に作品のよさと美しさを味わうことができた。

鑑賞会では、任意のグループの友だちの作品を見て相互によさや感じたことを伝え合うことで、仲のよい友だちの作品に偏りがちだった鑑賞対象を広げることができ、学級の融和につながったと考える。このグループ化は、作品を鑑賞して色や形から受けるイメージを感じて文章化することに効果を上げていた。また、作品を見る観点を具体的に共通事項の内容に即して示したことで、一人に対して書く欄を広く設けたことで、細かい分析を行って文章に表すことができるようになった。このことから、作品を味わおうとする心の豊かさに広がりを持つことができたと考える。

完成作品は鑑賞会後にその日のうちに皆が持ち帰った。早速家庭で使用する、飾っておく、妹にプレゼントするといった声が聞かれた。生活に豊かに生かし、楽しい、美にあこがれる、絶えずよりよい創造を目指すなどの感性を豊かにし、美術作品を愛好する心情に少しでも近づけたようである。

(2) 課題

作ることでの味わいは深いことが分かった。更に是非家庭で使用したい、大切にしたいという思いや、また別の創作意欲につなげたいといった、生活の中で美術を愛好する心情をどのように高めていけばよいかを課題である。より身近な生活に生かせる題材の提示が大切であると考えられる。

参考資料

- ・ 中学校学習指導要領解説美術編 文部科学省 平成 20 年 9 月
- ・ 評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 美術】
文部科学省 国立教育政策研究所 平成 23 年 11 月
- ・ 鋳物の現場技術 日刊工業新聞社 千々岩 健児著 1980 年 11 月 5 日